C—28 山形県の刺子（第２報）上杉藩士族にみられる花雑巾（その２）

県立米沢女短大　徳永幾久

目的　前報では　旧上杉藩士族の中で　特に原方衆と呼ばれる半農半士の屯田兵の主婦たちによって作られた花雑巾について，県内の他の藩政地域の刺子と比較しながらその特色を述べた。今般は　その雑巾の模様構成の主軸となっている文様について　上杉雑巾への定着理由について考察した。

方法　花雑巾の収集資料と比較資料および文献による検討考察

結果　上杉花雑巾の模様構成の特色は，六角および三角を基礎とした　亀甲繋ぎや麻の葉文様が主体となっていることに注目し，それらが何故屯田兵の中に定着したかの考察を試みた。そこで　亀甲文様の伝播の系譜，厂史的変化，文様の利用物や利用場所などを考究した結果，六角のもつ桟能性や美意識　更に　亀のもつ吉祥の意識や亀卜を使用した階級意識などから考え，貴族や武士は亀甲形を吉祥にあやかるものとして尊び　特に武士にこれが強く　シンボリックなものとして扱れ　亀甲内には着用者の趣好による花文その他を入れたものもある。明日の命のわからぬ武士にとって　三千年の長寿を保ち，生と力を表象し　また宇宙を表象する亀をあしらふことは　生死をとおして生命の永遠を希ふ最も格好のものであったと考えられる。また　亀甲文は有職文様として使用されたので　百姓をしながら士族意識を温存する屯田兵にとっては　この文様に托す精神的意図は，祈願にも似たものであったと思われるし、天平吉甲文錦に似た花雑巾の亀甲わく取りは，屯田兵の士族意識を高揚させるために必要なシンボルマークであったと思うのである。